



■コミュニティだより

VOL. 69 (年4回発行)

- 発行日 平成25年 9月30日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1 (旧若駒寮)
TEL/FAX (62) 3988

《特集》『字委員長 (代表区長) さん』に聴く！

三春まちづくり協会は、各地区の区長・民生委員に、消防団・婦人会・老人会・PTA等の代表者いわゆる「当職」といわれる方々と、各地区から推薦された委員で構成されています。特に、代表区長は字委員長としてまちづくり協会の役員職を任じています。今号では、より良い行政サービスの推進のため行政担当と住民との調整機能を果たされている区長としての職務を通した、日頃の苦労話や、これからの協働のまちづくりに向けたご意見・課題等をお聴きし、特集しました。【紙面の関係で、お聴きした内容を取りまとめ要約して編集しています。】

字委員長 (代表区長) さんの主なお仕事は

— 字委員長 (代表区長) さんの主な職務内容をお聞きました —

字委員長 (代表区長)		
◇大町	村上	弘さん
◇中町	久保	博さん
◇八幡町	橋本	奉明さん
◇荒町	吉田	清さん
◇北町	降矢	通英さん
◇新町	岩間	甚栄さん
◇八島台	小川	秀悦さん

【 行政担当 】
・公報文書、広報物の配付依頼
・住民への連絡事項の伝達
・各種協議会への出席
・町主催、共催行事への参加依頼
・住民意向調査、集約の要請
・各種委員等の人材推進
・防火、防犯等の推進協力 等々



【 住 民 】
・地区内の要望、苦情事項の調整
・各種公報文書、広報物の配付回覧
・各種会合への出席
・祭礼・イベントへの参加
・各種募金、分担金の集約
・地区内各種団体活動の調整 等々

字委員長 (代表区長) さんにお聴きました

— アンケート調査から字委員長さん方の実情をまとめてみました —

質問：1 代表区長を担当されての感想をお聞かせください。

- ◇生活道路整備事業の推進で、住民に喜ばれ良かった。
- ◆町内各字毎の地域差があることを実感した。
- ◇原発事故や9.21集中豪雨等の災害対応に苦労した。
- ◆長年三春を離れていたが、地域で知人が増えたことは良い。
- ◇当職による、関係各種団体等の会議が多く非常に重荷。また、字の各種イベント企画についての責任を強く感じる。
- ◆(字割当の各種委員や団体役員等の) 字からの人選を依頼された際、適材適所の人物を探すのが困難。また、依頼が多すぎる。
- ◇職務を通し、字の方々からお礼を言われた時は良かったと感じた。
- ◆住民の町への要望等を出来るだけ多く、きめ細かく聞く事は大変。
- ◇字の人々や各団体の皆さんと懇談でき、字の活性化に寄与できる。
- ◆個人的な問題まで持ち込まれる。
- ◇コミュニティへの関係が密になった。
- ◆誰かがやらなければならないので努めている。

質問：2 あなたの地域には、どのような課題がありますか？

- ◇字委員を始め役員になる人がいない。
- ◆(地区の事情や住民の意向を考慮しない) 区及び隣組の適正な軒数化に反対。
- ◇私有地の草木対策。
- ◆空家増加による火災・盗難・環境悪化(雑草、立木が歩道に架る)。
- ◇後期高齢者世帯が増加し隣組活動に支障が出て、コミュニティのあり方に不安。
- ◆年々高齢化と空家の増加が進行している。
- ◇地区内の桜川改修工事が終わったが、今後の河川管理(防火用水確保等)が新たな課題となった。
- ◆予定されている除染仮置場の管理と期限内撤去。
- ◇ペットに起因するトラブル発生が増えており、管理のあり方に課題。
- ◆高齢化、少子化が急速に進んでいる。

質問：3 課題解消の方策について、どのような提言がありますか？

- ◇字に対する応援。
- ◆隣組体制の見直し、編制替えの必要性を今から考慮し方策を検討。
- ◇町当局が空き家対策に具体的かつ積極的に取り組む。
- ◆大きな課題は、字・町だけでは困難。県・国の適切な対策がいる。
- ◇本来は飼主のモラルの問題、責任意識の向上策の推進も必要では。
- ◆住民の理解と協力が重要。

問：4 地域行政のあり方で、行政担当へ要望等がありますか？

- ◇民事不介入で片付けないで、種々解決に向け共に考えてほしい。
- ◆字からの要望・依頼はするが、行政側からの問いかけが少ない。
- ◇防犯灯など字の予算で継続的に維持管理するのは困難な現状であり、助成金を増やしてほしい。
- ◆行政への要望等は、困った時にならないと出てこない。日常的に何かある筈と町民目線で気を配ってほしい。

質問：5 住民自治の観点から、住民の方々へ要望がありますか？

- ◇字及び町の行事に参加すること。
- ◆役員まかせの状況が認められ、積極的な行事参加が望ましい。
- ◇少子高齢化の社会では大変であると思うが、自分でできることは自分で解決する心構えを望みたい。
- ◆町あるいは字役員が何でもやってくれると望みすぎないように。
- ◇字や町の行事に出来るだけ参加し、字や町行政の中味を知り身近に感じてほしい。
- ◆住民自治に積極的に参加してほしい。

質問：6 協働のまちづくりについて何かご意見がありますか？

- ◇行政側からの積極的な問いかけを期待すると共に、字の実情も常に關心を持って把握する努力をしてもらいたいと共に、字としても一体となって協力活動することで推進力になると考える。
- ◆総てについて、希望があればすべての方が自由に参加できるシステムづくりをお願いしたい。
- ◇字委員と地域住民や各種団体との懇談会を年2回程度開催、話し合いの内容を大事にして事業計画へ反映させ、より活性化を図る。
- ◆気軽に参加出来るコミュニティづくりを進める。

編集者の目

今回の企画で、字委員長の方々から寄せられたアンケートから、共通的な事項をまとめてみました。

- 職務に携わる事になって、初めてコミュニティの重要性と地域全体の個々の連携の大切さを認識できた。
- 少子・高齢化を反映し、人材確保や字内構成に多くの課題がある。
- 個別課題の内容によって、行政からの適時・適切な支援が必要。
- 地域事情について住民が情報を共有し、理解と協力による参加型のまちづくりが必要。
- 字委員長の職務は、行政と住民との中間にあって地域行政サービスの適正な推進の潤滑油的な存在であり、必要かつ重要な立場である。大変な仕事であるが、達成感も持てる仕事でもある。

シリーズ
《初心に聴く》④

前号に引き続き、新任委員の方々に寄せられた『まちづくり協会活動に携わる初心』を掲載します。

環境部会

長谷川良一さん

昨年、未だ残雪のある時期に山に登ったときのことです。途中会う人は少なく頂上には一組のご夫婦と一人の男性がいました。頂上は平らでかなりの人数が休める広さです。ご夫婦は休んでおり、男性はかがみこんで何かを掘り起こしているように見えました。男性が何をしていたのか気にも留めず少し離れたところから挨拶をし、天気も眺めも素晴らしいので食事を取りながら約20分位休みました。その間も男性はもくもくと作業をしておりましたので、何をしていたのかと声をかけてみました。「昭和の遺産」を発掘しているとの返答です。どのような遺産なのかと見せてもらいましたところ、喜べるものではないかもしれませんが懐かしい感じがするものでした。なぜこのようなところに沢山の「昭和の遺産」と呼ぶものが埋めてあったのか、訊くまでもなく、昭和の時代に登山道や山頂周辺にすてられた物を山の愛好者の方々が拾い集めて頂上に埋めたのだろうと推測されました。男性は何らかでここに埋められていることを知

り一人で掘り起こして持ち帰ろうとしていたのです。私が下りる頃には「昭和の遺産」は三春のゴミ(中)袋3個になっており、まだまだ埋まっているとのことでした。

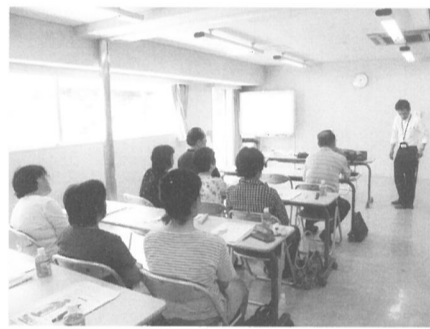
現在はゴミを持ち帰るのは常識ですが、それでもとさきお菓子の小さな包装紙やプラスチック容器などが捨てられているのを見かけます。どこか場所でもそうですが、ゴミを捨てずに持ち帰るといって一人ひとりの心がけの大切さを改めて感じたところです。山を下りる時にはご夫婦の方と「昭和の遺産」を一袋ずつ分けていただき、お土産として持ち帰りましたが歓迎されませんでした。

さて、このたび三春まちづくり協会の環境部会の会員になりました。環境に関することは範囲が広く、身近なことで考えてみるとゴミの処分や河川などの汚染特に桜の季節には交流人口が多くなることでの環境への影響及び対応、狭い歩道や自転車の安全確保などいろいろ浮かんでくるものです。三春まちづくり協会の中で環境部会が果たすべき役割等については捉えていないところもあります。平成25年度事業計画は視察研修、放射線量の測定とありますので、安心して暮らせる地域環境について勉強させていただきながら取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

部
会
だ
よ
り

福
祉
部
会

「高齢者模擬体験」参加



今回、福祉部会では保健センターにおいて高齢者疑似体験講習会を受けました。耳栓や特殊眼鏡、手首や足



首に重りを付けた物を装着して、高齢者になった時の身低下、心理的变化がどのようなになるのか体験してみました。

重りを装着して階段を上り降り、廊下を行ったり来たりとこれによって障害のある方々のつらさが身に

“第10回三春秋まつり&第6回石柱拓本ラリー開催のお知らせ”

街並部会

恒例の“三春秋まつり”が下記により開催され、三春まちづくり協会も協賛事業として街並部会が中心となり、“石柱設置活動の紹介と石柱拓本ラリーの開催”を企画し参加する予定です。

記

- ☆期日：平成25年11月9日(土)～10日(日)
- ☆場所：三春町貝山総合グラウンド及び体育館
- ☆内容：協賛各団体による陳列・即売・イベント等(詳しい内容は、「広報みはる」、開催チラシ等で案内されます。)

— 町民の皆さん、是非ご参加ください —

環
境
部
会

「田村西部環境センター」視察研修について

本年度は、環境部会に相応しい視察研修で、部員の中には田村西部環境センターを訪れるのが初めてという部員もいた。目的は、日常自分達が出しているゴミがどのように処理されているのか、資源として再利用はされているのかなど実態研修である。橋本啓松会長ほか七名、施設内において紹介ビデオ後、遠藤所長案内により、ゴミ焼却施設・灰溶融施設を見学した。中



田村西部環境センター
灰溶融施設を見学した。中

みて分りました。このような人々に会った時は、やさしい言葉で接することが大事なあとつくづく思いました。(鈴木 節子)

【ゴミ増・焼却費用の拡大】

*震災・原発等の影響があるのか。(燃えるゴミが23年度より24年度は850t増加している)

灰溶融炉においては、日本初のエコバーナーを適用化しフラフを燃料として、1/3程度を賄っている。(フラフは廃プラスチック等を細かく破碎したもの)

*資源の再利用はゴミの分別が大切である。また、スラグはブロックや路面材として試用を模索していたが、現在は、路盤材として年間800t以上を売却している。

施設場所において、各自が数多くの質問等だされ丁寧な説明により環境センターに対し理解を深めるとともに、環境部会の今後の課題を考え、推進することにおいてもよい視察研修であった。

最後に、施設内に小学校4年生の施設見学による体験、お礼等が掲示されている。環境問題が多様化し多発する中、幼年から現場を体験させることの大切さとより多くの町民に対する【GMPR】の必要性を痛感したしだいである。

(村上喜代治)

編
集
後
記

テレビドラマ、日曜劇場「半沢直樹」がサラリーマンの代弁をしていてスカッとすると高視聴率を得る。現実的には半沢直樹のような行動をとれば倍返し以上のしつぺ返しがあるかも。四〇年のサラリーマン人生の中で隠忍自重する手本になったのは「サラリーマン人生ことわざ訓」だった。

▼『変化の激しい時代には、三日見ぬ間の桜のように世の中が移り変わる。年々歳々花相似たり、年々歳々人同じからず。移れば変わる世の習いに、積極的に適応していく心がけが必要だ。』

▼血気にはやる若いときは、思い立ったが吉日とばかり行動を起こしやすい。しかし桃栗三年柿八年、果物が成るにも相応の時節がある。石の上にも三年座り続ける辛抱強さ、点滴石をうがつ根気強さを持ち続けたい。

▼サラリーマン社会は人間関係で成り立っている。若い世代に望まれるのは、謙虚さと協調性。過ちでは改むるに憚ることなかれ。今日のミスは明日の大きな成功に繋げるように努めよう。上司、先輩に叱られてアタマにくるようなことがあつたら今日考えて明日しゃべれ。軽率妄動は一人前の社会人との態度ではあるまい。(抜粋)▼今も心の糧として人生訓である。

(鈴木朋邦)

コミュニティだより
「三春わが街」第六十九号
発行日 平成二十五年九月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広 報 部 会
三春町大字貝山字泉(一〇一)
(六二) 三九八八